jaicows Newsletter
No.19 (2007.9.14.発行)

JAICOWS 総会報告

日　　時：2007 年 3 月 27 日（火）13：00～14：00
場　　所：専修大学 8 号館 2 階 821 教室
司　　会：長野ひろ子
挨　　拶：原　ひろ子会長

議　　事

協議事項

1．2007 年度事業計画
岩井宜子役員より 2007 年度事業計画案が諮られ、審議の結果、承認された。
① 総会の開催
② 役員会の開催
③ 講演会の開催
④ ニュースレターの発行（No.19、No.20）
⑤ JAICOWS 会員を対象としたメールによるアンケート調査の実施
1)「科研費申請のための非常勤講師研究者番号取得の実態調査」　2007 年度前半に行う
2) 任期制教員と妊娠・出産の問題　　2007 年度後半に行う
⑥ 文部科学省の科学技術振興調整費の「女性研究者支援モデル」について
この施策について情報提供があったが、詳細に浅倉むつ子会員に書いていただいた（後掲）。

2．岩井宜子役員より 2007 年度会計予算案が諮られ、審議の結果、承認された。

2007 年度予算

2007 年 3 月 27 日

1．収入の部

勘定科目	予算額	備　考
繰越金	256,702	
会　費	610,000	5,000 円×122 人
利　子	200	
寄　付	100,000	
その他	0	
合　計	966,902	

2．支出の部

勘定科目	予算額	備　考
通信費	30,000	総会はがき代、発送手数料等
Newsletter 印刷費 Newsletter 発送費	170,000	No.19、20
行事費	30,000	
会議費	50,000	
事務局費	40,000	アルバイト代
交通費	10,000	取材費
学会業務委託費	420,000	
予備費	216,902	
合　計	966,902	

報告事項

1．2006年度事業報告

岩井宜子役員より2006年度の事業報告がされた。

① 新規会員の勧誘（新規会員20余名　氏名と所属は後掲）

② 総会の開催

③ 役員会の開催

④ 講演会の開催

講演者：大坪久子先生（東京大学分子細胞生物学研究所講師、男女共同参画学協会連絡会副委員長、日本分子生物学会・男女共同参画委員会委員）

演　題「ライフサイエンス系女性研究者の今と未来」―「独立PIを育てること」と「女性研究者の多様性を認めること」の間に潜むジレンマ―

⑤ ニュースレターの発行（No.17、No.18）

⑥ 非常勤講師の科研費研究者番号取得に関する事例調査の計画

2．2006年度会計中間報告

岩井宜子役員より2006年度の会計中間報告がなされた。監査が終わった段階でニュースレターNo.19を通じて2006年度会計決算を報告することとなった（後掲　馬場房子監査の監査を受けている）。

3．日本学術会議報告

浅倉むつ子役員より日本学術会議の状況について報告があった。

・現在の女性会員数は、日本学術会議の会員210名中、42名、連携会員1988名中、238名

・課題別委員会に「学術とジェンダー委員会」（委員長：江原由美子）を設置

・常設委員会に「男女共同参画分科会」（会長：辻村みよ子）を設置

・ジェンダーに関係する学協会において「ジェンダー学連絡協議会」（ジェンダー史学会、日本女性学会、日本ジェンダー学会、ジェンダー法学会：オブザーバー　国際ジェンダー学会）を設置

・シンポジウムについて（日本学術会議のホームページ参照）

・『学術の動向』にジェンダー関連の記事を随時掲載

2006年度会計決算報告

（2006年4月1日～2007年3月31日）

1．収入の部

勘定科目	予算額	決算額	差異(△収入減)	備　考
繰越金	128,910	128,910	0	
会　費	575,000	637,000	620,000	127人分（83.3%）
利　子	0	247	247	
寄　付	100,000	100,000	0	ワールドプランニングより寄付
合　計	803,910	866,157	62,247	

2．支出の部

勘定科目	予算額	決算額	差異(△支出増)	備　考
通信費	30,000	20,565	9,435	発送費、総会はがき代、発送手数料等
Newsletter印刷費 Newsletter発送費	170,000	92,400 23,180	54,420	No.17、No.18
行事費	50,000	40,000	10,000	アルバイト代
会議費	5,000	10,500	△5,500	弁当代
学会業務委託費	420,000	420,000	0	
予備費	67,975	2,810	65,165	取材交通費、振込手数料
合　計	742,975	609,455	133,520	
次年度繰越金		256,702		

2007年3月31日現在　　会員数　152名

JAICOWSの新入会員

(2007年3月現在)

磯田　博子	筑波大学大学院	児玉　浩子	帝京大学
上田　真喜子	大阪市立大学大学院	富永　智津子	宮城学院女子大学
御船　美智子	お茶の水女子大学	佐藤　薫	東京大学大学院
金井　淑子	横浜国立大学	伊藤　るり	お茶の水女子大学
片田　範子	兵庫県立大学	小長谷　有紀	国立民族学博物館
渋川　祥子	聖徳大学	広瀬　崇子	専修大学
若桑　みどり	千葉大学名誉教授	竹下　秀子	滋賀県立大学
山下　泰子	文京学院大学	辻　ゆかり	ＮＴＴ
池上　幸江	大妻女子大学	外山　紀久子	埼玉大学
小川　眞里子	三重大学	後藤　弘子	千葉大学大学院
宇高　恵子	高知大学		

(敬称略　順不同)

文部科学省の「女性研究者支援モデル育成」事業について

浅倉むつ子（早稲田大学）

女性の学生、大学院生の数は徐々に増えてきているが、彼女たちがそれぞれ意欲と能力を活かして研究者としての地位を獲得するには、今なお、とても厚い障壁がある。その最大のものは、出産・育児であろう。本来であれば人にとって幸せであるはずのライフイベントによって、研究活動が中断され、場合によっては研究そのものを断念せざるをえないことは、社会にとっても個人にとっても、誠に大きな損失である。

しかし、女性研究者の環境を改善するための試みが少しずつ広がってきている。一例として、文部科学省は、2006年度に「女性研究者支援モデル育成事業」を提案して、1件あたり4000万円ほどの科学技術振興調整費を支給することにした。公募をつのったところ、初年度には36の大学・独立行政法人から応募があり、審査の結果、北海道大学、東北大学、お茶の水女子大学、東京農工大学、日本女子大学、東京女子医科大学、早稲田大学、京都大学、奈良女子大学、熊本大学が採択された。翌2007年度には、さらに19件の応募の結果、東京大学、名古屋大学、大阪大学、九州大学、神戸大学、広島大学、千葉大学の7大学および3つの独立行政法人（森林総合研究所、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構）が採択された。

各大学および研究機関は、それぞれ振興調整費を受けて、3年の間にモデルとなるような女性研究者支援事業を実施することになった。たとえばお茶の水女子大学は就労条件の改善のために「9時5時の就業時間の徹底」に取り組み、北海道大学は女性教員の数を増やすために、「女性教員採用促進のためのポイント制」を実施している。日本女子大学は「ユビキタスリサーチ支援」「女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクト」を発足させ、東北大学は「杜の都女性研究者ハードリング支援事業」などを行い、それぞれにユニークな活動に取り組んでいる。これらの試みによってライフイベントが研究と両立するようになり、研究の場においてもワークライフバランスが実現することが期待される。JAICOWS としても、このモデル事業の行方を見守っていきたいものである。

非常勤講師の科学研究費取得についてJAICOWSアンケートのまとめ

直井道子（東京学芸大学）

平成17年度から科研費の申請資格を非常勤講師にも認めるとの方針転換がなされました。非常勤講師には女性が多いことから、JAICOWS はその方向で運動を進めてきましたので、この方針転換を大きな前進と高

く評価しました。しかし、実際に非常勤講師として研究者番号取得を勤務先の大学に申請する場合、多くの事務的障害があるとの指摘もあり、当会においてもその実施の実態をフォローすることが必要だと考え、今年度の事業の一つとして位置づけました。そこで、会員が勤務している大学での現状についてメールにてアンケートを実施しました。

合計21名の会員から回答がありました（回答者の勤務先内訳は私立大学13、国立大学法人6、公立大学法人1、研究所1）。自分の知る範囲での回答のほか、勤務先の大学へ問い合わせての回答もありました。

集計結果

（1）科研費の申請資格を非常勤講師も得たことをご存知でしたか

1．知っていた　16人

2．知らなかった　5人（うち資格を認めない1人）

（2）貴大学の貴方の部局において非常勤講師にも申請資格があることが周知されていますか

1．周知している　7人

2．そういう情報には接したことがない　8人（周知していないを含む）

3．実態を知らない　4人

（3）貴大学において非常勤講師にも研究者番号が付与された例がありますか

1．付与した例がある　8人

2．申請しても事務サイドで拒否された　0人

3．その他（不明、申請がないなど）　7人

（4）（3）において1と回答された場合、出身大学が異なる非常勤講師にも申請は認められているでしょうか

1．認められている　9人

2．認められていない　0人　（不明、非該当12人）

（5）その他この件につき何かご意見がありましたらお書きください

以上から、21人中16人が非常勤講師への応募資格付与について知っており、7人は周知しているとし、8人は申請例があるとしています。すなわち、応募資格付与まで達成したのは回答者の半数以下といえます。

次に、(5) の自由回答と他の質問への自由記入についてまとめました。

まず、資格を認めるかどうかですが、ある私立大学では非常勤講師は研究活動を一切含まないものとする、として応募資格を認めないという機関決定をしているということです。研究所などではフルタイム契約社員（ポスドクフェローなど）には認め、非常勤の研究補佐員などには認めていないという回答がありました。また、非常勤の大半は教育だけであるので、研究をする非常勤に対しては申し出があれば個別に対応する、というような回答もありました。

これらの回答から、あくまで推測ですが、大規模大学などでは非常勤に応募を認めると事務量が急増することを警戒し、いろいろなバリアを設けているのかもしれないとも思われました。非常勤講師にも研究が必要だということを認めさせるにはどうしたらよいのか、知恵を絞る必要がありそうです。

さて、これらの結果、研究者番号を付与された実例は少ないのですが、申請して断られたというよりは申請そのものがない、あるいはよく実態がわからないということのようです。その中で、勤務先の例ではないが他の大学で拒否された実例を知っている、というような回答もありました。また、手続き的に半期勤務の非常勤講師は募集の時期は職員ではないので応募できない、というような指摘もありました。

なかには、大学の事務の方から来年度からはこの問題に正面から向き合っていきたいという積極的な回答もあり、ある意味、アンケートを行った甲斐がわずかとはいえあったのではないかとも感じられました。

ご存知の方も多いとは思いますが、私もこの問題について調べ、次の知識を得ました。

1．科学研究費の中の奨励研究についてはすでに非常勤講師なども申請を認められているが、このことを知らない人（当の非常勤を含めて）が多い。

2．平成18年度科学研究費から予算額が少ない種類の科研にも間接経費がつくようになったため、大学としても多少事務が煩雑になっても科研に多く応募してほしいという姿勢になってきている。あまり非常勤が多い私立の場合はこの限りではないが、とくに有名名誉教授などが大型の科学研究費を当ててくれたらよいという期待は大きい。

3．いずれの場合にも学内での拠点（たとえば備品を置く場所）は必要で、その大学において常勤の協力者を得られるかどうかが問題になる。

4．一人の研究者が非常勤や客員、あるいは常勤と非常勤といった組み合わせで複数行っている場合、どの大学から科学研究費を申請してもかまわない。そこで、他の大学の常勤だが「うちの大学で他の教員と一緒に科研に応募して間接経費をとってきてください」といった有名研究者の奪い合いの事態も想定できる。

女性科学者のインタビュー・リレー　〔3〕

食と人間を関係させた調理科学の研究から日本学術会議会員へ
～ JAICOWS創設者の理念 ～

島田　淳子さん　　昭和女子大学短期大学部学長・お茶の水女子大学名誉教授

質問　どのような専門領域ですか？

調理科学です。昭和30年代の初めにお茶の水女子大学の家政学部を卒業しましたが、そのあと中学校の教諭になりました。26歳で結婚し子どもを産みました。子どもが満一歳の時に母校に大学院が設置されたので「やはり私は研究したい！」という心の叫びに従って進学しました。子どもはまだ一歳ですから、易しい道ではありません。でも私が在籍した研究室は「燃えるような研究室」でした。

その頃、日本は敗戦の後、女子高等師範学校から新制大学になって間もなく、皆が暗中模索で苦闘している時代でした。その中で全国をリードする研究室だったのです。

質問　それはいったいどういうことなのですか？

敗戦後は飢餓の時代、食の政策は大切でした。私がお茶の水女子大学の助手になった時、全国から研修に集まる大学の先生方に調理学を教えました。遠路、汽車に乗って子連れで上京し、子連れのまま実験する人たちです。日本を代表する調理学の研究室には熱気がありました。研究への情熱です！

困難に負けない何かがありました。

質問　日本学術会議の会員になられたのはいつですか？

第16期の会員です。女性は私一人だけでした。第15期には4名いらした女性会員が1名に減ったのです。当時の日本学術会議会長は伊藤正男さんでした。副会長の利谷信義さん（現家政学院大学学長）のアドバイスをいただき、JAICOWSの呼びかけをする運びになりました。はからずも私が唯一人の学術会議女性会員として創設の原動力となりました。お会いしたこともない研連委員の女性たちに電話をかけて発起人をお願いしました。同じお茶の水女子大学に原ひろ子さんがいらしたので、文系は原先生にお願いし、理系は島田が女性研究者を結集させたのです。

質問　第一回の懇談会はいつですか？

1995年（平成7年）1月5日です。日本学術会議を会場に、80名のメンバーで発足しました。会長は第15期会員だった一番ヶ瀬康子先生、副会長は鳥居淳子先生（法学）、丹羽雅子先生（生活環境学）、私を

含む6名の幹事と2名の監事で役員会を構成しました。

女性研連委員がひとつにまとまった組織として、JAICOWSは学術会議の中で認められ、事務方や広報などのサポートも受けられるようになりました。第16期を通して活発な活動を展開しましたので、創設者としての責任は果たせたと思います。

懇談会当日は新聞記者による取材があり、日本学術会議の全学問分野にわたって横断的に女性研連委員がそろっている、ということでJAICOWSは注目されました。創設の理念に心を打たれた多くの女性研究者から励ましの電話をいただきました。驚くことばかりでした。

質問　そのような経験は初めてでしたか？

食の科学といっても「家政学」というと理学からは一段低く軽んじてみられる傾向がありました。しかし、調理科学は食と人間の関係を一体としてとらえ、理学の物質分析オンリーではなく、人間の感性を化学に介在させます。例えば「油脂の調理性に関する研究」において、天ぷらがカラリと揚がった理想的な状態に対して、油っぽいベチャッとした（まずい）状態があります。しかし、ベチャッとしたものは、意外にも油分が少ないのです。つまり古い油にはカルボニール化合物が含有されていて、ニオイ成分が含まれており、古い油で揚げるとまずく感じられます。被験者をサンプリングして感応検査を行うことにより揚げ物のおいしさ（まずさ）の原因を客観的に追究しました。

このように食と人間を関係させた調理科学の研究成果が少しずつ認められて、全国からシンポジウムや講演に呼ばれるようになりました。家政学における食物分野の中心は「調理学」であると、内外に認知される時代が来たのです。やがて私は日本学術会議の第16期、第6部の会員になりました。

質問　振り返ると私の大学時代（1960年代）にも、ドイツ語の先生が児童学科の女子学生を「ガキ学科」、食物学科の学生を「くいもの学科」と呼んでいたことを思い出します。女性の研究に対してそういう言葉を使っていた旧弊な時代もあったのですね。

そんなわけで60歳を過ぎてから、女性研究者の地位向上に本格的に取組むようになりました。第16期に創設されたJAICOWSは、「婦人研究者のライフサイクル調査研究（昭和57年～59年）をふまえて」（猿橋勝子、坂東昌子）、その後「女性科学研究者の環境改善をめざして」（主催は日本学術会議）などのシンポジウムを開催し、企画担当の鳥居淳子先生、浅倉むつ子先生たちの「あり方」調査プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは時事通信社、各新聞社などプレスも参入して記事にしてくれました。思い返せば1歳の子どもを抱いて「研究者の道を選ぼう」と決断したことが、いまの私のルーツであり、女性は科学に対して男性と同じように責任を負うべきであり、負いたいと希望している現在が、私のゴールなのかも知れません。そしてこれは変わることのない私達の共通の理念でもあります。

インタビューは国枝タカ子による。
（収録：2007年3月30日）

（この号は、東京学芸大学の直井が係りでした。）

連絡先：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）事務局
〒101-8425　東京都千代田区神田神保町3-8　専修大学法科大学院　岩井　宜子
Tel　03-3265-6917　　Fax　03-3265-6962
E-mail　ths0494@isc.senshu-u.ac.jp
http：//jaicows.fc2web.com/

事務センター：〒105-0001　東京都港区虎ノ門3-7-2 大橋ビル　株式会社ワールドプランニング
Tel　03-3431-3715　　Fax　03-3431-3325　　E-mail　world@med.email.ne.jp

郵便振替　口座番号　00100-8-542793